



創造する生徒 心豊かな生徒 鍛える生徒

藤花だより

令和5年度5月号
令和5年4月28日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「探究する読み」

校長 森角 由希子

風薫る5月を迎えようとしています。花が咲き、新緑と梅雨前のさわやかな季節ですが、今年は、一日の中でも日中と朝晩の寒暖の差が大きく、体調管理が難しいと感じています。

さて、本の整理を始めようと自宅の本棚をふと見たとき、広辞苑に目が留まりました。第1版、第3版と2冊並んでいた時期があり、第1版は母の知人から商売を始めるにあたって記念品としていただいたもので、第3版の登場により、本棚から引退となりました。ちなみに第3版は、私の高校卒業記念品です。「何故、記念品に辞書なのか??」。本に挟んであったチラシには「贈る人の心を伝えるセンスある贈り物」とありました。わからない言葉を調べるのに最近では気軽に端末に頼ってしまい、しばらく辞書を引く機会もなかったので、気まぐれに「西」（大宮西中学校にちなみ）という文字の意味を調べてみました。

西（しは風の意か）

- ①四方の一。日の入る方角。万七「ぬまたまの夜渡る月をとどめむに一の川辺に（略）」
- ②西風の略 記下「大和へにくに一吹き上げて」
- ③[仏]④西方浄土。大鏡道隆「一かきむけて奉りて念仏（略）」
◎西本願寺の略。 お西。
- ④相撲で、土俵の正面から見て右手。また、そちらから登場する力士。
- ⑤江戸の劇場内で、舞台に向かって左側。大阪では右側をいう。
- ⑥新宿遊里の称



一つの文字に、6つもの意味があったとは。③の◎については、私が中学時代の修学旅行でバスガイドさんが「西本願寺のことを『お西さん』と呼びます」と教えてくださったことを思い出しました。万葉集の引用例から、日本語の歴史の重みを感じ、また、漢字辞典でも「西」を調べると、その意外な成り立ちに驚きました。「西」という文字を一度辞書で引いたものの、意味を覚えきれず、何度も引いているうちに、金田一春彦(言語学者)さんの言葉を思い出しました。(たしか、小学生の時に使っていた辞書の巻頭言に、「わからないことを、友達に聞くと『そんなことも知らないのか』『何度も同じことを聞くな』と言われることがあるかもしれないが、辞書はそんなことは言いません。自分が知りたいと思って何度引いても、何度も教えてくれます」といった内容であったと思います) 子ども心に「哲学的なすごい言葉に出会った」と感じました。

先行き不透明な Society5.0 時代を生きる生徒の皆さんにとって、この先、文章や情報を正確に読み解き対話する力や価値を見付け生み出す感性、好奇心・探究心が必要となってきます。そして、様々な課題を解決する過程において、デジタル端末を活用し、様々なコンテンツを比較・関連させながら、興味・関心を広げ、真理を追究するために主体的に読み解いていく力が求められています。

明日からゴールデンウィークに入ります。しばしの休み、端末や紙など、複数の情報を、広い視野からいろいろなものを関連させたり、自由自在に活用したりする機会を自分でつくってみてはいかがでしょうか。